

[研究ノート]

中国農村エリートの社会移動に関する政治メカニズム分析

刘 颖

鷺尾 紀吉

〈目次〉	はじめに
	1 農村エリートの概念と内包
	2 農村エリート管理モデルの類型及び特徴
	3 農村エリートの新農村建設中の重要な作用
	4 農村エリート社会移動に関する政治次元分析
	おわりに

はじめに

隋唐時代から、中国の政治統治構造は中央集権と地方自治の2つに分けられ、中央管轄の範囲は遠くて県クラスの行政単位までに達し、広い農村地域は村の郷紳階層に管理される。この時期の農村エリートは士紳、宗族リーダー、庶民地主、郷保及び他の類似の国家権力の農村での「代理人」などの人からなる。清朝の末期、統治の基礎を安定させるため、清朝は農村地域に対してのコントロールを強化し、科挙制度を廃止する。郷紳が村を統治するという権力は奪われ、上層に移動する制度ルートがふさがられ、一部の土豪悪漢はこれをきっかけに農村地域の統治システムに介入する。「伝統型の郷紳がなくなり、代わりに武装化、劣化した地方エリートが益々多くなった」といえる¹⁾。

新中国が成立してから、厳格な行政区画と土地配分制度を実施したので、政府は農村社会に対するコントロールを集中して厳密に行った。伝統の農村エリートに取って代わったのは、政府の利益を代表する農村の党員幹部である。改革開放以降、経済上の家庭生産請負制と政治上の村民自治制度は農村社会に新しい発展の機会を与え、農村の政治構造が新たに構築され、伝統型エリートと現代型エリートが農村社会中の区別に始めて出てくる。農村エリートの変化は異なる時代の発展の需要を映しているので、農村エリートに対する研究は中国の農村社会研究の重要な一環である。

社会主義新農村の建設には、農村エリートが積極的に参画することが大いに求められる。農村エリートは、政治実践の中で中国の農村コミュニティの発展に重要な影響を及ぼした。改革開放以来、農村エリートの移動は日増しに頻繁に行われ、農村エリートの社会移動の原因を深く検討し、分析することは、現在の中国新農村建設における人材問題を解決するポイントである。農村エリートの社会移動が日増しに頻繁化するという現実には、社会政治、経済、文化などの多くの要素から影響を受けたことによる。

そこで、本論文では、政治メカニズムの角度からその移動の原因を分析し、農村エリート集団を改めて構築し、農村の政治構造を最適化するための理論の基礎を提供することが目的である。

1 農村エリートの概念と内包

農村エリートは、農村社会発展の各方面でも重要な役割を果たしている。社会の各領域の開放程度が拡大するにつれて、特に改革開放以来、都市部と農村部の格差が現れ、農村エリートの移動速度や広さも未曾有の上昇の勢いを示している。自由移動は社会進歩のシンボルであるが、農村社会生活を支える重要な役割を果たしている農村エリートが農村部から都市部まで一方向で速く移動したことは、農村社会の発展に多く不利な影響を及ぼした。その原因を分析し、農村エリート回流に関する政策を打ち出すことは、政府と学界とが共同で注目するポイントとなる。

農村エリートということの内包に対しては、学界の多くの学者は異なる角度から境界を区切っている。王漢生は、農村エリートを「コミュニティの中に指導、管理、決定、整合などの機能を背負って、重要な影響力がある人物」と定義する²⁾。また、「小集団の交際実践の中に、他のメンバーより、より多くの社会資源を調達できる人、価値性の権威配分、例えば、安全、尊重、影響力をより多く獲得できる人は、エリートになることができる」と全志輝は指摘する³⁾。さらに、項輝は、「中国の農村エリートはこのようなコミュニティメンバーを指すべきで、彼らはある面で一般のメンバーより多くの優勢資源を有し、そしてその資源を利用して成功を収めて、コミュニティに貢献し、更にある権威を有し、それに他のメンバー及びコミュニティの構造に影響を与える」と述べる⁴⁾。

農村エリートの類型からみると、一部の学者はエリートが占めている資本の類型に基づき区別する。陳金光は、経済資本、人力資本と社会資本に基づき、農村エリートを政治エリート、経済エリートおよび社会エリートに区分する⁵⁾。賀雪峰は、価値観と行為方式に基づき、農村エリートを伝統型エリートと現代型エリートに区分する⁶⁾。金太軍は、把握する資源の形式に基づき、農村エリートを、正式的資源を把握する体制内エリートと非正式資源を把握する体制外エリートに区分する⁷⁾。そのほか、陽信は、「農村積極分子」という概念を提起している。農村積極分子というのは、村の内部と外部(内部を主体とする)で、農村の公共事務を積極的に支持して主体的に参画し、農村の総体福利を増進し、農村の公共利益を実現させる各種の積極的な力の総称であると述べる⁸⁾。

以上の考えを通じて、農村エリートは、基本的に「社会資源、政治地位、文化程度、道德威信などの面でより強い優勢を有し、良好な自己意識と参画意識をもち、そして農村社会の発展に対するより大きな影響を及ぼす居民である」ということができ⁹⁾、それは、体制内エリートと体制外エリートに区別することができる。この区別方法は、イタリアの社会学者ヴィルフレド・パレートの「執政エリート」と「非執政エリート」の区別に合致する。

2 農村エリート管理モデルの類型及び特徴

農村エリートは、体制内エリートと体制外エリートに分けられる。その根本的な原因は、近現代国家政権が農村地域に干渉し始め、かつ農村エリートの伝統的意義の運営モデルを打破した。中国農村エリートの発展経緯を総合的にみれば、農村エリートの管理は3つモデルに分けられる。すなわち、(1) 体制外エリート管理モデル、(2) 体制内エリート管理モデル、および(3) 体制内エリート管理と体制内外エリートの協力管理モデルである。この3つモデルの形成と発展は、その時代の合理性と管理特徴を有する。この3つモデルを深く理解することは、さらに中国における今の国情発展にふさわしい最適な道を深く探すことに役立つ。

(1) 体制外エリート管理モデル

このモデルは隋唐時代から起源し、アヘン戦争前までに続いた。当時各朝の政府は、交通が不便であり、また財政不足などの原因によって、農村地域に対してすべて不作為の管理方式を取り入れ、農村地域を政権管理の範疇に区分化した。これは、農村エリートが形成した根本的な原因であり、もっとも伝統な特徴の一つである。体制外エリートは、体制内エリートのように国家強制力の保障に寄りかかる権力を統治することはできない。このような社会的枠組みの下では、郷紳の具体的な管理方式は、「礼法」をめぐる展開するしかない。郷紳管理権の出所は、権力体制が与えたものではなく、彼ら自身が道德塑造と文化伝播における権威から得たものである。彼らは、文化を通じて道德信望の樹立を感銘させ、管理業務を実現する。これは、体制外エリート管理モデルの今一つの重要な特徴である。

体制外モデルを実現する根本的な条件は、国家政権の欠如ということである。同時に、正統の道德性の文化知識を持つことと一定の道德信望を保持することは、疑いもなく郷紳が農村権力に対するコントロールを実現するのに必要な前提である。

(2) 体制内エリート管理モデル

体制内エリート管理モデルは、主に新中国が成立した以降から改革開放前の時期に現れた。新中国が成立した以降、政府は厳格な行政区画制度と土地配分制度を制定し、農村地域の管理権をしっかりと掌中にコントロールし始める。文化大革命は、さらに農村自治を維持する礼法、道德論理を転覆し、体制外エリート管理の基礎は徹底的に破壊された。人民公社制度の下における農村エリートは、政治体制内に生れただけであり、体制外エリートは「礼法」を管理する基礎を失っただけではなく、管理の合法性も失った。したがって、その歴史時期のうちただ体制内エリート管理モデルだけが存在する。

そのモデルの管理の特徴は明らかであり、行政命令である。前記のモデルが生じた優勢と弊害は、すべてこの特徴に起源する。優勢は、短時間のうちに高効率運転を実現することができ、その弊害は、長期的にみれば専権、低効率、資源浪費などの悪い結果を生み出す可能性がある。これらの弊害は、歴史上にはっきりと反映され、歴史を振り返って考え直し、また現行体制の弊害を鑑みると、国家が新しい農村統治の道を探究するときに、このモデルを使うことは、慎重に考慮すべきだと考える。

(3) 体制内外エリート協力管理モデル

体制内外エリート協力管理モデルは、歴史上に2つの時期がある。すなわち、清朝の末期から新中国が成立した前まで、および改革開放から現在までの時期である。清朝政府は統治を固めるために、農村地域の管理を行政管理體系に組み入れはじめ、郷紳階層は、農村の管理層からの退出を余儀なくされた。しかし、国力の制約に引かされ、政府の農村に対する管理は厳しくなく、これは、地方土豪無頼漢および劣質地主が農村管理体系に入るきっかけを与えた。ある意味からいえば、土豪無頼漢も農村エリートがその時期の体現となる。改革開放以降、中国は農村地域に村民自治制度を実行したが、行政権力が農村に浸透することはまだ停止しておらず、行政権浸透の主な方式は地方権威官僚化である。村委員会は、ある程度政府の農村コミュニティ代弁者とみられ、したがっ

て彼らは体制内エリートに属する。

一方、市場経済体制の下に生れた経済偉才、宗族リーダー、知識分子などの体制外エリートも農村の発展に影響を及ぼし始める。しかし、これらのエリートの農村に対する影響力は国家の重視と支持を得られず、体制外エリートと呼ばれる。

以上の2つの時期の農村管理モデルは、すべて2つの異なる背景、異なる利益訴求、異なる管理方式のエリート集団が共同協力することによって実現する管理であり、この管理モデルのもっとも大きな特徴は、2つのセットの異なる運営体系を体現し、これは、相互間の管理手落ちを補填し、相互補完と制約の関係を形成することに役立つ。

農村コミュニティ管理の優劣はこのモデルの下に2つの極端が現れ、もし2つの体系が相互の関係を調和できれば、また同じ目的に力を入れることができれば、さらに国民のために利益を求めれば、 $1 + 1 = 2$ 以上の管理効果を実現できると考えられる。逆に、もし両者の関係のバランスが取れず、両社が互いに打撃して自分の力を突出するならば、あるいは両者が自身の利益を求めることに一致合意し、このことに共同して協力するならば、最悪の管理結果が生じるかもしれない。したがって、この体制運営が良好な結果を収めるかどうかのキーポイントは、体制内外エリートの協力程度および相互監督のメカニズムによって決まるといえる。

3 農村エリートの新農村建設中の重要な作用

社会主義新農村の建設は、中国の近代化プロセス中の重大な歴史任務であり、農村エリートは新農村発展中の中堅的な勢力である。いかなる農村エリートにも機能を発揮させ、農村エリートを引き留め、回流を引きつけ、ひいては都市部から農村部へ逆方向に移動することを実現することは、政府が政策を制定する時の肝心な出発点である。農村エリートの根本的な属性と特質は、農村エリートが農村社会で示したデモンストレーション効果を決める。農村エリートが把握している資源優勢と成功は、農村社会構造の維持と農村社会発展の面で重要な役割を果たす。具体的にいえば、農村エリートの作用は主に以下の通りである。

(1) 政治作用

まず始めに、農村エリートは基層政府と当地村民の橋と絆であり、中国農村社会と国家との関係の中に重要な役割を演じている。農村エリートは、政治実践中で国家と農民の仲介人を演じ、農村社会の実際のコントロール者である。縦方向からみれば、農村エリートは政府の政策を上下に報告と伝達する実践者である。農村の手本としている農村エリートは郷および鎮政府と協力し、国家の方針政策を伝達し、国家の関係政務を貫くと同時に村民の利益を代表して村の政務建設を行い、村民を庇い、一般村民の「保護者」の役割を演じる¹⁰⁾。この役を成功に演じることは国家政権機関と農村住民との間の弾性要素となり、国家の政策、法律が基層でよく実施されることが保証されるとともに、村民の利益を維持保護することがよりよくできる。

また、農村エリートは農村近代化のプロセスに影響し、村クラスの管理中に重要な役割を果たし、農村社会の安定を維持保護する中堅的な勢力である。農村基層民主選挙は、農村エリートと基層民衆利益の融合を促した。村民は村民代表会議制度を通じて、十分な政治表現ができ、村の重大な政略を決定することに参画することができる。一方、村民代表会議制度は、農村エリートに役割を果たすルートを提供する。彼らは自己価値を実現でき、積極性が発揮させられ、政治活動によりよく参画することができ、近代化のプロセスを推進し、農村社会の団結と安定を維持保護することができる。

(2) 経済作用

農村エリートは、まず、先進的生産様式の実験者であり、農村経済発展の先駆者である。その自身の特質と把握しているメッセージ、技術、知識などの資源優勢によって、農村エリートは、新しいものを勇敢に試み、新しい生産経営方式を受け入れ、農村の産業構造の調整と経済体制改革を促し、手本となる機能を発揮する。「中国農村の何回かの大きな変革はすべて農民が直接主導して発生したものであり、その過程で農村エリートは制度形成の中堅的な勢力である」といえる¹¹⁾。

それと同時に、農村エリートも郷鎮企業が健全に発展できる重要な力であり、「農業と商業の結合モデル」の推進者である。改革開放以来、農村の郷鎮企業がすばやく発展し、中小企業の健全な良性発展は中国経済持続発展の基礎力となった。農村エリートは自分の優勢を頼り、

農村の社会資源を整合し、郷鎮企業を先立って発展し、農民が近くで就労できることを実現し、農村における余剰労働力の出稼ぎがもたらした社会問題を緩和した。

(3) 社会作用

農村生活中の特殊な地位によって、農村エリートは農村の文明建設、農村社会規範の維持保護および道德輿論などの面で主導的な役割を果たす。多くの農村エリートは故郷の公共福祉と文化建設を自分の責任として、公益の活動、トラブルの解決、公共工事の建造などの領域で積極的に機能を発揮し、公共文化と公共利益の指導者になる。農村エリートは、まず農村文化の継承者、伝播者および創設者であり、農村社会の日常生活に知らず知らずのうちに村民の思想と行動に影響を与える。彼らの価値システムを核心とする農村文化は、村民が文化伝承の中に精神帰属を実現させ、かつ農村社会のデモンストレーション効果によって、農村の凝集を実現する。

農村エリートは文化指導者となるとともに、農村の公益事業の発展を推し進め、農村の整合を促す主要な勢力である。農村エリートは農村社会生活の中に威信と凝集力を表し、彼らは自身の利益を実現すると同時に、村民を率いて公益事業の建設を行い、農村の公益事業の発展を推進する。例えば、村の道路の維持保護、学校の修繕およびほかの農村基礎施設の維持保護と管理をすることなどである。「農村エリートは、ある程度に農村社会の整合を促進した。日常生活では、主に人間関係を調和し、隣人の対立とトラブルを仲裁し、冠婚葬祭を手伝い、また違法犯罪を制止するなどのことを行う」のである¹³⁾。

農村エリートは、農村社会の中の役割を軽視してはいけませんが、社会発展プロセスに現れた社会移動はさらに注目されるべきである。改革開放以来、社会主義市場経済体制の確立につれて、2元体制の下で都市と農村の経済発展はアンバランスであり、教育発展の不均衡とそのエリート選抜規制により、農村エリートの移動は一方向、かつ持続性の特徴を示している。農村エリートの流失は、すでに社会主義新農村建設の重点課題となった。そこで、次節において、重点的に農村エリートの移動が引き起こした政治メカニズムを分析し、農村エリート集団の再構築について述べる。

4 農村エリート社会移動に関する政治次元分析

改革開放以降、全社会の構造が深刻に変化してきたが、中国社会構造の変化は2つの重大な社会転変の過程を含む。一つは、「農業・郷村そして閉鎖・半閉鎖性からなる伝統社会」から「工業・都市そして開放性を特性とする現代社会」への転変であり、今一つは、「高度に集中された計画再分配経済体制」から「社会主義市場経済体制」への転軌である。社会転変と体制転軌と同時に行い、相互に押し進める傾向を形成した¹⁴⁾。政治次元からいえば、主にマクロとミクロの2つの政治レベルで農村エリートの社会移動に影響する。

(1) マクロ制度要素

計画経済の終焉につれて、特に改革開放以来、家庭生産請負制の実施によって、国家の権力体系が次第に農村社会から縮小し、農村社会に対する政治制御が相対的に弱くなり、他方で村民の自主性が強くなり、また生産の積極性も高まり、機械化と農業技術の普及によって、純粋な農業生産はすでに広範囲な農民の生活需要を満たせない。

都市化という発展戦略は都市部の経済発展を大きく促進し、多くの農村エリートも元の生活様式を離れて農村から都市への社会移動を始めた。国家の農村労働力に対する政策案内は、徐々に「移動を導く」から「移動制限を取り消す」と「公平な移動にする」に変わり、農民就職についての各種の不合理的な制限を取り消し、教育、医療、保険などの面での政策調整は一步進んで農村労働力の転移を促進した。国家統計局が2013年2月に発表した統計公報によると、2012年全国の農民工の総人数は2億6,261万人であり、その中に次世代の農民工人数と教育レベルはともに引き続き高くなっている。

ヘンリー・メインは、社会進歩のプロセスを「身分から契約へ」の変化と概括し¹⁵⁾、「契約が身分に取って代わる本質は人の解放であり、法治が人治に取って代るということであり、自由移動が身分束縛に取って代ることであり、後天の奮闘が先天資格に対して崇拜することに取って代ることであり」と述べる¹⁶⁾。ヴィルフレド・パレートも、「もし統治エリートが庶民階層の優れた人材を招く方法を考えないで、もしエリートの移動が阻止されれば、国家と社会のアンバランスが現れ、社会秩序が混乱

になる」と指摘する¹⁶⁾。

中国の戸籍制度はずっと社会自由移動の主な障害物であり、今世紀80年代以来、大規模な「民工ブーム」の現れは厳しい戸籍制度に衝撃を与える。自由移動の要求の応答として、政府は戸籍制度に対する一連の調整を行い、戸籍制度を取り消すことはすでに合意されており、多くの地方政府は各種の有益な試みを展開している。戸籍制度の弛みと地域制限の弱화가あって、農村エリートの自由移動の空間フィールドが形成される。

「中国の文明史は、ずっと都市と農村との分離、また対立するプロセスとともに発展してきており、著しい独特性があり、政治社会状況の都市と農村の差別はとりわけ顕著である。この不平衡性は、まさに1カ国の政治発展の重要な特徴であり、その上に全社会の発展プロセスを制約する」のである¹⁷⁾。中国の都市と農村の二元構造、特に二元経済構造は農村エリートの正常な社会移動を厳重に制約し、多くの農村エリートの社会移動は、「農村から都市へ」の一方向の移動形勢を示す。都市と農村の二元構造の核に深く入れば、農村エリートの非状態移動という基本現実を変えることができる。

(2) ミクロ制度要素

村民自治制度は、農村エリートの社会移動に影響するミクロ政治制度である。村民自治制度は中国基層民主制度建設中の初めての試みであり、民主選挙がその中の最も基礎的、最も重要な一環である。具体的な政治実践の中に、各種の状況に限られて、民主選挙のプロセスには多くの問題があり、そのうちの最も顕著な問題は選挙制度が非標準的なことであり、選挙過程におけるルールが不足し、例えば、「外地のエリートは立候補者になれるか、選挙に参加できるか、村委員会と党支部の関係はどうか、郷と鎮政府は村委選挙にさらに干渉すべきかどうか¹⁸⁾」などの問題については、すべて村民自治制度機能の有効発揮を制約する。

村委員会は基層村民の自治組織であり、設立された目的は民主選挙を通じて、農村公共事務を管理することに対して自主と自決を実現することである。しかし、実践中に、多くの村民委員会の機能は郷と鎮政府の機能が村で延長することになる傾向があり、村民委員会は、ある程度郷と鎮政府が郷村の執行機構となり、郷と鎮政府の代弁者の役を演じる。村民委員会がこのような役を演じることがあり、農民、特に農村エリートが村民委員会に対

する信頼を失い、政治参画の情熱と積極性を冷まさせた。それとともに、郷と鎮政府は、政治あるいは経済利益の考えにより完全に農村生活から退出しなかった。むしろ「戦略的なコントロールプロセスを通じて幹部の選任をコントロールし、例えば、村支委の改選をコントロールして村委會の改選に影響する」ということになった¹⁹⁾。

このような幹部の選任が郷と鎮政権にコントロールされた制度は農村エリートの政治参加を強く衝撃し、農村エリートの政治参画の積極性も挫いた。多くの地域には政治冷淡な現象も出現した。このようなミクロ的な政治現実、農村エリートが民主選挙という政治手段を通じて利益要求を実現するルートを塞げる。農村エリートは、政治主張を広げられず、利益要求が満足できず、さらに政治参与の情熱と郷村の政治現実の落差があるため、大変憂鬱な気持ちと挫折感を感じている。

中国の農村基層民主建設が勢いよく発展し、多くの農村エリートの政治参加と期待が次第に高くなり、「80年代以前、農民が政治社会を認めたのは、主に新社会が農民を解放させる直観体験と自分を解放させた指導者に対する深い愛と無限に尊敬する感情を築いたことである。80年代以降、農民は理性的認識を運用し始めて政治態度を選ぶ」のである²⁰⁾。

一方、中国の農村基層民主建設中に存在する選挙賄賂、家族勢力、郷と鎮政権による幹部選任の干渉などの問題があって、農村エリートの利益要求が満足できず、政治参画の挫折感が生じ、さらに一般の村民は村委會に対する利益期待の当てが外れ、基層民主政治は、実際には村民の有効な参加に不足することを引き起こしている。

おわりに

改革開放以来、経済が急速に発展し、農村エリートの認知レベルが次第に高くなり、都市生活のデモンストレーション効果もあって、農村エリートが追及するものは農村の政治生活に限らなくなっている。彼らは把握している知識、技術と先端の思想文化の優勢に頼り、農村を離れて都市で自己利益の実現と価値の満足を追求し始める。その移動過程は、農村エリートと農村社会の絆を裂くことではない。彼らは、終始、農村社会のメンバーとして、ある程度農村の経済、政治、文化に影響を与える。政治レベルでいえば、彼らは依然として農村選挙および

他の農村管理に参加でき、そして自分の政治利益を有効に実現することを追及する。これは、ある程度農村エリートの社会移動にチャンスをもたらす。農村エリートは社会移動の過程で一方向の特徴を示すが、農村社会と緊密な絆があるので、彼らが政治利益の満足を追求するルートは依然として存在し、参画する故郷の政治実践の中に利益と価値の双方の追求を満足することができる。

以上の記述をまとめると、農村エリートの社会移動の一部の基本的な政治要素を確定することができる。まず、マクロ政治制度の調整と経済発展は、農村エリートの社会移動の実現に基本条件を提供する。その次に、ミクロ政治レベルに存在する欠点が農村エリートの社会移動を刺激する。また、農村エリートの素質の向上および彼ら自身利益と価値への追求が農村エリートの社会移動の絶えざる原動力となる。これらの要素は、農村エリートが村を離れて都市に入るといふ情勢を集中的に示す。

「19世紀以来、発展途上国における多くの事実は、農村の盛衰治乱は一カ国が安定するかどうかの基盤と象徴であることを証明している。国家の乱は農村から始まり、農村の治は必ず国家の隆盛と安定をもたらす。これは発展途上国の政治発展の普遍的な規律である」²¹⁾。現在では、農村エリートの社会移動はすでに学界が普遍的に注目する問題となっているが、政治メカニズムの原因に対する検討と分析はただ単に農村エリート社会移動の一面を研究することだけでなく、経済、文化、社会領域に対する研究をさらに深化すべきであると考えられる。

農村エリートの社会移動は農村余剰労働力の問題を解決し、都市の発展を促進し、個人の価値を実現するとともに、一連の問題ももたらした。農村エリートが持続的に移動する原因を分析し、農村エリート集団を新たに構築する対策と見解を提出することは政府と理論研究者の重要な任務である。農村エリート集団を新たに構築する根本的なルートは二元体制の下で都市と農村の差別を解消し、都市と農村の発展を調和し、一体化構造を実現することである。具体的にいえば、政府は農村建設への重視を引き続き強化し、農村との各政治関係を良く整理し、公共権威の法律地位を維持保護し、制度内エリートと制度外エリートが協力する管理モデルを構築する。先端技術を導入して特色ある農業を発展し、農村経済が順調にすばやく発展することを推し進める。模範的な文化を通じて、人々の「都市を重視し、農村を軽視する」という

観念を転換させ、正確な都市と農村を位置づける観念を樹立させる。農村のインフラ建設を強化し、特に教育体系を建設し、農村の発展のため人材を蓄える。農村エリートを引きとめ、農村エリートの回流を吸引し、農村エリート集団を新たに構築することによって、社会主義新農村の建設は必ず成功を収めると考える。

[注]

- 1) 刘博. 精英历史变迁与乡村文化断裂—对乡村精英身份地位的历史考察与现实思考[J]. 青年研究, 2008(4).
- 2) 王汉生. 改革以来中国农村的工业化与农村精英构成的变化[J]. 中国社会科学季刊, 1994年秋季卷.
- 3) 仝志辉. 农民选举参与中的精英动员[J]. 社会学研究, 2002(1)
- 4) 项辉, 周俊麟. 乡村精英格局的历史演变及其现状[J]. 中共浙江省委党校学报, 2001(3)
- 5) 陈光金. 20世纪末农村社区精英的“资本”积累策略[J]. 江苏行政学院学报, 2004(6)
- 6) 贺雪峰. 村庄精英与社区记忆: 理解村庄性质的二维框架[J]. 社会科学辑刊, 2000(4)
- 7) 金太军. 村庄治理中三重权力互动的政治社会学分析[J]. 战略与管理, 2002(2)
- 8) 阳信生. 农村积极分子的分类及其培育[J]. 湖南农业大学学报: 社会科学版, 2010, 11(1)
- 9) 郑晓凤, 刘颖. 中国乡村精英治理模式的路径探究[J]. 河北青年管理干部学院学报, 2012(4)
- 10) 王中标. “乡村精英”发挥作用的制约因素及对策[J]. 特区经济, 2007(10)
- 11) 赵晓鸿, 郑祖街. 村庄精英对农村经济的影响分析[J]. 中国乡镇企业会计, 2006(3)
- 12) 张登国, 任慧颖. 当代中国乡村精英治理: 局限与可能[J]. 理论学刊, 2008(7)
- 13) 郑杭生. 关于21世纪中国社会发展的几点展望(J). 载社会学研究, 1997(2)
- 14) [英]梅因著, 沈景一译. 古代法[M]. 北京: 商务印书馆, 1984: 170
- 15) 朱光磊. 当代中国社会各阶层分析[M]. 天津: 天津人民出版社, 1998: 40
- 16) 科瑟. 社会学思想名家[M]. 北京: 中国社会科学出版社, 1990: 87
- 17) 转引于建嵘. 岳村政治: 转型期中国乡村政治结构的变迁[M]. 北京: 商务印书馆, 2001: 23

- 18) 旷宗仁, 杨萍. 乡村精英与农村发展[J]. 中国农业大学学报(社会科学版), 2004(1)
- 19) 王中标. “乡村精英”发挥作用的制约因素及对策[J]. 特区经济, 2007(10)
- 20) 徐勇. 非均衡的中国政治: 城市与乡村的比较[M]. 北京: 中国广播电视出版社, 1992: 433
- 21) 张厚安, 徐勇. 中国农村政治稳定与发展[M]. 武汉: 武汉出版社, 1995: 12

(基金項目) 本論文は、文系2010年度遼寧省社会科学基金計画項目“遼寧少数民族農村地区民間信仰問題研究”(L10bmz001)、中央高校基本科研業務專項資金資助項目“鄉村精銳鄉土帰属問題研究”(DC110409)の段階的成果である。